

# NHK 学校放送番組「しまった！」を活用した授業実践

堀川紘子（京都市立藤城小学校）・木村明憲（京都教育大学附属桃山小学校）  
楠本誠（松阪市立三雲中学校）・佐和伸明（柏市教育委員会）・高橋純（東京学芸大学）  
福本徹（国立教育研究所）・服部里衣子（日本放送協会）・堀田龍也（東北大学）

概要：学校現場において、情報活用能力を育成するために、タブレット端末を有効に活用した調べ学習や協働的な学習が求められている。そこで、情報活用能力、とりわけ情報活用スキルを高めることをねらいとした学校放送番組「しまった」を授業において活用し、「失敗を客観視」することに重点を置くことで、情報活用能力を育成することを目指した。

キーワード：情報活用能力，情報活用スキル，協働的な学習，学校放送番組

## 1 はじめに

急速に情報化が進展する社会において、情報や情報手段を主体的に選択し活用していくために、情報活用能力の育成が求められており、これらの力を体系的に育てていくことの重要性が高まっている（2015）。

また、教育の情報化ビジョン（2011）によると、2020年までに一人一台の情報端末の導入が検討されている。

このような状況の中で、情報活用能力の育成が求められ、学校現場にはタブレット端末が導入され、有効に活用することが求められている。しかしながら、情報活用能力の育成という言葉から、具体的にどのような力をつけることなのか想像することは難しく、特に、授業場面でどのように情報活用能力を育成することができるのか、タブレット端末はどのように有効活用すればよいかというイメージを持ちにくい。

そこで本実践では、小学校4年生から6年生、中学生を対象とした学校放送番組「しまった！～情報活用スキルアップ～」を活用し、情報活用能力、とりわけ情報活用スキルを育成するための授業実践に取り組んだ。

## 2 研究の方法

### (1)実践対象

京都公立小学校6年生3クラス（計76名）

### (2)実践時期

平成28年6月

### (3)NHK 学校放送番組「しまった！」の特長

学校へタブレット端末の導入が進み、ICTを活用し調べ学習や協働的な学習に取り組む機会も増えてきている。しかし、子どもたちは情報活用の基本を知らないことがある。本番組では、情報活用する上でよく起こる失敗例を取り上げ、その回避・解決方法を分かりやすく紹介することで「情報活用スキル」を高めることをねらいとした番組である。

### (4)授業実践

教科等：総合的な学習の時間

活用番組：「インタビューのしかた」

仕事について情報を得るためにインタビューする活動を取り上げている。

本時の目標：インタビューするときに気を付けつけることについて理解することができる。

①インタビューした経験を振り返る。

②めあてを提示する。

「インタビューの仕方をマスターしよう」

③番組を視聴する。（丸ごと視聴）

④インタビューのポイントを確認する。（イメー

ジマップの活用)

- ⑤ゲストティーチャーの仕事についてインタビューする。
- ⑥インタビューを振り返り、次に生かしたいポイントを整理する。
- ⑦再度ゲストティーチャーの仕事についてインタビューする。
- ⑧学習を振り返り、気付いたことを交流する。
- ⑨感想を書く。

### 3 結果

授業後の児童の感想や発言等から以下の成果が挙げられる。

#### ①児童自らインタビューをする際に必要なポイントを考える

番組で紹介されていたインタビューのポイントを活用した1回目のインタビュー後には、自分たちの問題点を振り返ろうとする姿勢が見られた。1回目のインタビューでの気づきを生かし、2回目にはインタビューするときに必要なポイントについて、自分たちで考えることができた。

#### ②失敗からの学び

授業後の児童の感想の中には「番組内でインタビューの失敗が紹介されていて、失敗をどのように直したのかわかった」という多数の発言があった。番組の中で、主人公に自分の姿を重ね合わせて視聴することで、失敗から学ぶことの重要性に気づき、インタビューするときのポイントを理解しようとする姿勢が感想から読みとれた。

### 4 まとめ

番組内に登場する人物の失敗する様子と自分の実体験のイメージを重ねることにより、インタビューするときの問題の所在に気づくことができた。問題を解決するために取り組む登場人物の姿に自分を重ね合わせ、自分が失敗しないためのインタビューのポイントについて考えを深める児童も見られた。

導入の10分という短時間で視聴覚教材を利用することにより、児童がその後の展開時での学習に共通の認識をもって授業を進めることができた。また、気を付けるポイントを意識した上でインタビューの練り直しの時間を得ることができ、児童の学びの深まりが見られた。

### 5 今後の課題

番組の視聴から得た学びをわかったつもりであっても、実際のインタビューの場面で生かせないと学びの意味は見出せない。「わかる」を「できる」にするための授業デザインが求められる。そのために、視覚から学んだことを実践し振り返るといった授業展開が情報活用スキルを高めるために必要である。

学習において、失敗から学ぶことは多い。また、失敗したことをもとに、解決するための方法を考えることも大切な学びである。しかし、限られた時間の中で実際に失敗し学ぶというプロセスを経験することが難しい場合もある。そのため、学校放送番組「しまった！」を活用し、失敗を客観視することから情報活用スキルを習得するためのポイントに気づき、学んだことを実践するという学習を位置付けた授業展開や単元構成が求められる。

### 6 参考文献

中央教育審議会（2015）教育課程企画特別部会  
論点整理

文部科学省（2011）教育の情報化ビジョン